

キリスト教保育

2024年1月1日発行（毎月1回1日発行）第658号

年主題

ともにつむぎだす

〜希望の中で〜

巻頭言

イエスさまから託された村人

塩川成子

論説

子どもとの暮らしの中で

―何を大切にすべきなのかを考える― (2)

本江理子

小論

こどもの平和 ②

公文和子



1

2024 JAN.

あの者たちから手を引きなさい。ほうっておくがよい。あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない。 新共同訳聖書・使徒言行録5：38～39

今月の聖書の言葉は、ガマリエルという人（民衆全体から尊敬されていてパウロを教育した律法の教師）が、^{*}最高法院の議員たちに向かって語ったものです。

当時、ペテロとその仲間たちは「イエスがキリストである」ことを大胆に語っていました。ところが大祭司とサドカイ派の人々は、ペテロと他の使徒たちを捕まえ、最高法院の中に立たせると、大祭司は、宣教の禁止を厳しく命じます。しかし、使徒たちは「人間に従うよりも、神に従わなくてはならない」ことを主張します。これを聞いた人々は怒り、使徒たちを死刑にしようと考えている時に、このガマリエルが、賢明な制止の一つとしてスピーチするのです。聖書は、巧みな語り口によって、行間にある思考を注意深く読み取らせようとしています。人間から出たものか、それとも神から出たものか、という相対立する事柄を問題にしています。

「あの者たちから手を引きなさい。ほうっておくがよい」という聖書の言葉の意味は、当分の間ほうっておきなさい、待ちなさい、何が起るか見なさい、ということでしょう。彼らは、待つ方法（待ち方）を知っているのです。彼らは、深く根ざした信頼を何処かに持っているからです。私たちは、何事にも待つ方法を知らないとは思いませんか？ 保育実践においては、どうでしょうか？

新しい年を迎えて、私たちは「心構え」「計画」に挑戦したくなるものです。箴言16:1、16:9、4:26の聖書の言葉からは、自分の心には、多くの計画が立つけれど、神が最後の言葉を持っておられるということが、よくわかります。

『キリスト教保育指針』（キリスト教保育連盟1989）の「キリスト教保育と保育者」という項目の最後のページに「神に委ねる勇氣」について書かれています。私たちは、保育計画・指導計画にも工夫を凝らして、保育実践をしています。保育は、労苦と忍耐の多い働きであるために、自分の働きと錯覚してしまいます。私たちの保育は、それを神に委ねてこそ、キリスト教保育となり得るのです。

（宗宮 進・執筆 当時・日本キリスト教団津山教会牧師 田町保育園園長）
1990年『キリスト教保育』誌1月号より

キリスト教保育

第658号1月号

年主題

ともにつむぎだす

～希望の中で～



2024

幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉

イエスさまから託された村人 塩川成子

〈論説〉

子どもとの暮らしの中で―何を大切にすべ

きなのかを考える― 本江理子

図書紹介 児玉 芽 萌出由喜子

〈小論〉こどもの平和 公文和子

聖書に聞く・お話 山本香織

【カリキュラム】

1月 月のねがい表

心にとめて 西川恵

実践報告 るうてる愛育園

実践からの学び 久保小枝子

心にとめて 国府田郁絵

実践報告 天童みくに幼稚園

実践からの学び 岡田直美

私たちの園では 松隈 協

絵本のとびら 山口真紀

〈連載〉子どもの健康 丸尾敏之

子どもの祈り

〈連載〉キリスト教の行事 武蔵野中央幼稚園

礼拝のお話 西嶋佳弘

子どもと賛美するために

目福口福耳福 中川晶子

風 山根由美子 編集子 赤木敏之

連盟だより

カット 中敵治子 こだいみのり 松成真理子 金井ユリ

表紙絵 田中榎子

2

3

4

6

15

16

20

23

24

26

31

32

34

39

40

